

令和6年度 社会福祉法人 吉祥会 寒川ホーム 介護老人福祉施設 事業計画書・事業報告書

理事長	施設長	管理者	作成者
三澤	三澤	高野	高野

理念	すべての人と地域に、介護を通じて3K（歓喜・革新・開花）を実現します。	方針	1. すべての人（スタッフ・お客様）が歓喜できる人生を目指します。 2. 革新する姿勢を忘れずに、常に成長することを目指します。 3. 地域のさらなる開花を目指します。
----	-------------------------------------	----	--

令和5年度 法人の振り返り（評価・今後の課題） ①有料媒体に一切頼らない採用活動でスタッフを確保することができた ②人材は定着・増員するも運営・サービスに変化(取り組む姿勢)がない ③業務効率化・生産性向上を目指しICT・介護機器への取り組みが積極的であった ④新型コロナウィルス感染症への対策・対応ができており、通常通りの運営ができた ⑤人材育成・向上心を高める機会や働きかけがない	令和5年度 事業所の振り返り（評価） ①新人職員、中途採用者が離職していな ②ドクターメイトを導入し定着するまで時間は要したが現場スタッフの混乱もなくスムーズに運用ができた。スタッフが積極的に活用した。但し医療面のスキルアップはまだまだ必要。 ③地域貢献活動に参加するスタッフが大体同じメンバーとなり新しいスタッフに参加することが少なかった（積極的な参加）。 ④大きなクレームがなかった反面、積極的な家族との交流も少なかった。（家族会1回のみ）
--	---

法人目標 / 生産性を向上させ『新たな分野への切り開き・事業展開・サービス拡大』を行う 生産性を向上させ『革新的な取り組み』『事業およびサービスの拡大』『運営の多角化』へ取り組む【歓喜・革新・開花】 互いを尊重・理解し多様性のある職場づくり【歓喜・革新・開花】

介護老人 事業目標	1) 生産性向上・業務効率化(人材活用の見直し・ICT活用の促進)を図る 【歓喜・革新・開花】 2) いっそう多様性のある働き方を作り上げる 【歓喜】		
具体的な達成（目標）数値	1) 業務効率化と生産性を向上させ、ご利用者との時間・サービス展開へ繋げる ⇒ICT関連チームを作り具体的な運用、活用に向けての活動を行うと共に地域の方への効果発表の場を設ける 2) 家庭事情・風習・文化等の事情を考慮した勤務体制、チーム編成（対象職員の満足度 1 0 0 %）		
月間計画	評価 ※感想ではない	月間計画	評価 ※感想ではない
4月 1) 実施に向けての説明理解 2) 入職者の聞き取り	1)事業所会議を開催し各スタッフへ周知実施。全職員が参加したわけではない為に不参加だった職員にはグループリーダーから会議で説明を行ったことで全体周知はできた。 2) 入職者に関しては、業務慣れてからの聞き取りに変更。	7月 1) 介護機器の導入 レイアウト修正 2)	1)機器導入には至らず。ただ介護認証の機器が2グループ対象に実施（1カ月間）評価をもとに導入判断とした。 2) 富山グループと大曲グループの配置を1部修正した
5月 1) チーム作成 現場スタッフの聞き取り 2)	1) 各グループリーダーと責任者で構成となった。グループの中心職員が行う事が妥当と判断となったがワーカーからの立候補がないことは浸透性が乏しい。 2) アンケート実施したが回答率悪かった為、再アンケート実施。	8月 1) 介護機器の評価 レイアウト修正 2)	1) 認証の評価実施、オムツナビに関しては導入の判断にならなかったが研修での活用に活かした2) 富山グループは継続、大曲は各スタッフの評価から1部修正
6月 1) 介護機器の選定 面談 2)	1) 入浴関連で個浴に装着できるリフト型の機器の導入を検討したが導入まで至らなかったが選定できたことは評価に値する。	9月 前期評価	1) 実証実験と重なり思うように導入や、それまでの過程が上手くいかなかった 2) 外国人スタッフへの面談を定期的に行う事で不安を早急に改善した
上半期評価	1) 無駄な業務の削減やICTの導入に向けた検討（導入までは至らなかったが）できたことは一定の評価は出来る。介護機器認証もあり両立して行う事が困難となったが介護機器認証からの導入に向けてのヒントにはなった。 2) 前期は新人、外国人スタッフを中心に実施。面談を行い各自の事情を考慮しながら1部シフトを変更できたことは評価できたが全体的には行えなかった。		
10月 1) 2) とともに評価後の修正、計画	1) 10月から介護機器認証があったため介護機器を使用しての評価に10月は修正。機器とは他に業務効率化を重点に計画作成するよう各グループに指示、次月に報告とした。	1月 1) 2) 満足度調査	1) に関しては聞き取りから業務が効率よくなるのであれば今後もICT導入に向けお試しをしていても良いという意見が大半であった反面、協力的ではない意見「どっちでも良い」「分からない」という意見もあったことは全体の意識が薄かったとの評価もできる。2) 特に参考意見なし
11月 1) 介護機器の導入 レイアウト修正 2)	1)AIのおしゃべり機能付き介護ロボットを1カ月間お試しで利用開始。東エリアと大曲グループ対象にお試し開始。 2) 前期でレイアウト変更し特に問題なかった富山は継続した。他グループは再検討実施した。	2月 1) 2) 課題と結果の分析	1) 介護機器の導入に関して積極的に危機を調べ導入しようとするグループと消極的なグループとで分かれてしまった。全体的に取り組むようにしたが、もう少し小まめに各グループの動きをチェックが必要。 2) 外国人や新人ばかりになり他のスタッフへの聞き取りが不十分であった。
12月 1) 介護機器の評価 レイアウト修正 2)	1)11月に行った機器に関しては特賞での導入は難しく導入することは無かったが試して使用できたことは次に繋がることであった。 2) 12月は各グループ面談実施し働き方や勤務体制について確認実施。	3月 後期評価	1) 2月の課題で見えたようにグループによっての取り組み具合に差が出てしまった。進捗状況を細目に確認し導入まで至らなくてもお試し使用をするような動きが必要だった。 2) エリア、グループ隔たり無く色んなグループに勤務したことは良かったが本来の目的のチーム編成はできなかった
下半期評価	1) 前期の評価を元に後期を各グループで実施したが導入に前向きに取り組んだ所と疎かになってしまったグループがあったため随時、進捗確認は必要であった。介護認証をきっかけに色んな機器を試せて事は良かった。 2) 文化を考慮し禁句時間等を考慮できた。働きやすいレイアウトに変更は後期を行えなかった。		
実績・達成度（目標との比較）	1) 今後はICTの導入が必要になることを見越して事業計画にICTの導入を掲げ取り組んだ。結果、導入までは至らなかったが様々な機器を認証実験があったところで試したことや各自で何が足りないか必要かを見定めたことはリーダーのスキルアップには繋がったが全リーダーが行えなかったことは評価できず、進捗を随時確認するべきであった。ただ将来的にICTには必要なため年度が終わっても継続して必要なものは導入に向け動いていく。 2) 外国人スタッフへの配慮はこまめな面談や関係機関との協力、プライベートで外出することで少しはチームとして出来た。しかし他のスタッフへの配慮は足りなかった。また職場環境を見直しレイアウトを変えたり勤務時間を都度、考慮し作成できたことは評価できる。満足度 1 0 0 %を目指したが全体的に行えなかったために 5 0 %程度であった。		

理事長	施設長	管理者	作成者
三澤	三澤	植田	植田

理念　すべての人と地域に、介護を通じて3K（歓喜・革新・開花）を実現します。		方針　1.　すべての人（スタッフ・お客様）が歓喜できる人生を目指します。 2.　革新する姿勢を忘れずに、常に成長することを目指します。 3.　地域のさらなる開花を目指します。		
令和5年度　法人の振り返り（評価・今後の課題）		令和5年度　事業所の振り返り（評価）		
①有料媒体に一切頼らない採用活動でスタッフを確保することができた ②人材は定着・増員する運営・サービスに変化(取り組む姿勢)がない ③業務効率化・生産性向上を目指しICT・介護機器への取り組みが積極的であった ④新型コロナウイルス感染症への対策・対応ができており、通常通りの運営ができた ⑤人材育成・向上心を高める機会や働きかけがない		1.　令和5年以降、7名の入職があり6名が定着している。 2.　前年度より稼働率低下（減収）。（下半期は前年度より増収） 3.　絆を用いた記録を導入。紙媒体と併用してるが、記録のICT化が前進。 4.　SNS活用、ケアマネのデイ見学、ボラ・慰問を多数受け入れ、寒川ホームデイの魅力を利用者以外に発信できた。 5.　各スタッフの業務取り組みや改善に対して積極性や自発的な姿勢見られず。働きかけも不足。 6.　コロナ禍前の取り組みを繰り返した為、新しい取り組みが少なかった。		
法人目標　/　生産性を向上させ『新たな分野への切り開き・事業展開・サービス拡大』を行う				
生産性を向上させ『革新的な取り組み』『事業およびサービスの拡大』『運営の多角化』へ取り組む【歓喜・革新・開花】 互いを尊重・理解し多様性のある職場づくり【歓喜・革新・開花】				
通所介護　事業所　事業目標		1.　介護保険サービスの拡充と介護保険外サービスへの挑戦【革新・開花】 2.　ICT化の推進　　【歓喜・革新】 3.　スタッフ1人1人の自立【歓喜・革新】		
具体的な達成（目標）数値		1.　年度売り上げ1億円を目指す ①新規加算を取得（中重度ケア体制加算・個別機能訓練加算・LIFE関連加算）　②デイフロアの営業日以外の活用　⇨　要検討・意見聞きたい 2.　①介護記録を絆に完全移行　②SNSによる広報活動（通年）　③ケアマネ・ご家族との時代に即した連絡手段の確立 3.　①事業所研修会（全5回）　②事業所会議（1回／2ヵ月）　③職場環境向上のためのアンケート・面談（2回/年）		
月間計画	評価　※感想ではない		月間計画	評価　※感想ではない
4月 事業所会議 中重度ケア体制加算の開始 記録のICT化	中重度ケア体制加算の算定開始。利用単価の増額。 記録のICT化に向けて相談員で操作方法やICT化出来るものを検討し決定		7月 職場環境改善アンケート 面談	Instagramを輪番制に変更。 個別面談実施し各自の年度目標確認。デイサービスの課題を抽出。
5月 個別機能訓練加算の開始 CMへメールに移行 研修会	事業所会議実施し『歩行介助』に対する理解・方法を統一しリスク減を図った。 ケアマネジャーへメールでの連絡が可能か問う。2事業所メールに変更できた。		8月 事業所会議・研修会	現行の職員体制に合わせた動態、業務担当を決定し共有。効率化を図る。
6月 事業所会議・研修会 ご家族への連絡手段アンケート	連絡ノートへの情報記載をICT化。それに伴い、業務中の記録もタブレット入力へ移行。 各職員も理解し実行できている。月間計画内容には取り組めず。		9月	デイサービスのパンフレットの完成。し、投稿頻度を上げた結果、フォロー数が増える。 見学や新規依頼時にインスタを見ていただき雰囲気が伝わるようになった
上半期評価		加算取得・記録のICT化を計画通り達成。ケアマネとの連絡手段については、想定より少ない件数でメールに移行してきたが効率化には至っていない。ご家族も同様。SNSによる広報活動は、頻度が上がっている。 予定していた加算が1/3の取得となっている為、年度収入の目標達成は難しくなっている。今後、相談員変更もあり加算取得の準備を勧める予定の為、下半期の計画を見直す。		
10月 事業所会議・研修会	介護ロボットの実証に取り組む その為、事業所会議では実証に関して共有		1月	相談員業務のマニュアル化と簡素化を実施。翌日の準備の業務の短縮が行えた。
11月 職場環境改善アンケート	計画内容の取り組みは未実施。 先月に引き続き介護ロボットの試用に取り組んだ		2月	加算取得の準備が整う
12月 事業所会議 加算取得に向けて準備	科学的介護推進体制加算の取得の為、情報入力を開始 事業所会議は開催せず。		3月 事業所会議・研修会	入浴介助・介護記録について研修を行う 7月からの課題（業務負担のムラ）が解決できていない為、再度スタッフ間で話し合う。
下半期評価		計画に沿った取り組みは進捗せず。デイとして初めて介護ロボットの実証に協力。スタッフの知見が広がった。上半期に記録のICT化ができた為、レク準備への時間の確保から充実したレクリエーションの提供が行えた。 実施レクの評価はできていないが、各スタッフは『やりがい』が感じられていると聞き取る。外部への広報に力を入れ強みとする必要がある。		
実績・達成度（目標との比較）		稼働率については、前年度より上昇したが、目標としていた売り上げには届かず。加算の取得が不十分であったことが要因。ICT化の推進では、記録のデジタル化、各ケアマネとメール、介護ソフトを通してのやり取りと推進できた。介護ロボ実証にも取り組んだ事もICT化の理解につながった。家族への連絡手段は確立できていない。事業所会議・勉強会については、目標回数を実施できていないが、課題解決や必要な情報の共有等は十分に行えた。職場環境に対してのアンケートではなく面談を行い不満は聞かれないが、業務負担についての意見を聞き取る。年度内での解決はできず次年度への持ち越しとなる。		

令和6年度 社会福祉法人 吉祥会 寒川ホーム 訪問介護 事業計画書・事業報告書

理事長	施設長	管理者	作成者
三澤	三澤	船山	船山

理念	すべての人と地域に、介護を通じて3K（歓喜・革新・開花）を実現します。	方針	1. すべての人（スタッフ・お客様）が歓喜できる人生を目指します。 2. 革新する姿勢を忘れずに、常に成長することを目指します。 3. 地域のさらなる開花を目指します。
----	-------------------------------------	----	--

令和5年度 法人の振り返り（評価・今後の課題）	令和5年度 事業所の振り返り（評価）
①有料媒体に一切頼らない採用活動でスタッフを確保することができた ②人材は定着・増員する運営・サービスに変化(取り組む姿勢)がない ③業務効率化・生産性向上を目指しICT・介護機器への取り組みが積極的であった ④新型コロナウイルス感染症への対策・対応ができており、通常通りの運営ができた ⑤人材育成・向上心を高める機会や働きかけがない	①情報共有に努め、強みとはなりつつあるが、事業所全体のレベルアップには繋がってはいない ②意識改革や専門性を高めることに取り組んだが、成果は出ていない。 ③個別研修計画は各自自主主体的に立てることができた。テーマを2つ実施できたヘルパーもあった ④ヒヤリハット件数の増加とはならなかった。また報告者に偏りもあった。年間43件（3月13日時点） ⑤新規ご利用者のサービス1ヶ月以内でのサービス手順書の確認・見直しは漏れなく実施できた。年間22件（3月13日時点） ⑥毎月・年12回の事業所会議・勉強会を実施し、共有・検討・確認の継続に繋がった・平均出席率：86.9%

法人目標 / 生産性を向上させ『新たな分野への切り開き・事業展開・サービス拡大』を行う
生産性を向上させ『革新的な取り組み』『事業およびサービスの拡大』『運営の多角化』へ取り組む【歓喜・革新・開花】
互いを尊重・理解し多様性のある職場づくり【歓喜・革新・開花】

訪問介護 事業所 事業目標	①チームを意識し、業務標準化を通じ、サービス品質を維持・向上させる【歓喜・革新・開花】 ②受け入れの間口を広げ、地域により信頼してもらえる事業所を目指す【革新・開花】
具体的な達成（目標）数値	①個々の情報・知識・ノウハウを共有する場の活性化（情報共有ツールの使用数：令和5年度より200%増） ②毎月の勉強会以外の研修の実施（年3回以上） ③介護予防ご利用者の積極的な受け入れ（対応人数：平均30人以上） ④利用者満足度を把握し、サービス改善に繋げる（お客様アンケートの実施：年1回以上）

月間計画	評価 ※感想ではない	月間計画	評価 ※感想ではない
4月 接遇	「この人なら家に上げて構わない」と思われる接遇が大切と考え「利用者や家族に安心感を持ってもらえる」をポイントに考えることができた。	7月 プライバシー保護	個人情報とプライバシーの取り扱いのポイントについて改めて確認できた。 【事業所内研修：身体拘束・虐待について】虐待の芽を早期に摘むためにどうすればいいのか考えることができた。
5月 食中毒	利用者自身がより積極的に予防策に取り組んでくれるようにヘルパーができる工夫や配慮について考えることができた。	8月 倫理・法令遵守	「なぜ、法令違反が発生するのか」の理由に着目しながら、倫理・法令遵守について考えることができた。
6月 脱水・熱中症 事業所内研修の実施	脱水・熱中症ゼロを目指し、ヘルパーの役割の見直しにつながった。	9月 事故発生・再発防止 個別研修計画 進捗状況確認	事故が起きた時の対応法、再発防止策の立て方について事例をもとに考えることができた。
上半期評価	・新規は断ることなく受け入れ・対応しているが、介護予防ご利用者数は要介護へ移行するケースもあり25人以上とはならなかった。 ・毎月の勉強会以外の研修は予定より少ない1回の実施であったが、学びの場が増えたことは実施の意義があった。		
10月 認知症ケア 事業所内研修の実施	「接し方のポイント」「症状別対応方法」について、コミュニケーション方法を中心に検討することができた。	1月 人権擁護・虐待防止	厚生労働省の資料や各自治体のガイドラインを参考に、高齢者虐待の早期発見のためのサインのチェックリストを確認し、小さなサインもキャッチする意識付けにつながった。
11月 感染症予防	【事業所内研修：感染症・自然災害BCPシュミレーション】「優先的に継続・復旧すべき重要業務の継続」「早期復旧を目指す」ことを想定事例をもとに検討することができた。	2月 感染症・災害時の業務継続計画 事業所内研修の実施	感染症・災害時の業務継続計画は11月の勉強会内容の復習・確認の場となった 【事業所内研修：「訪問介護の『できること』『できないこと』生活援助の範囲」】実際によくある27の内容をもとに日頃の業務の再確認・共有につながった。
12月 緊急時対応	動画（YouTube）での研修。予防救急の視点を学び、緊急時に焦らず、あわてず対応するために大切な事前準備の考えることができた。	3月 ハラスメント 個別研修計画 取組み結果確認	これまでの発生事例を確認し、ハラスメントの定義や効果的な予防の取り組みを学び、共通認識を持つことにつながった。
下半期評価	・持続的に「新規が増えない」「入院者がある」「キャンセルが多い」状態となり、稼働時間・収入が前月を下回ることが11月～2月まで続き、3月も微増にとどまった。 ・毎月の勉強会以外の研修は2回実施することができ、法定研修の項目以外の内容での実施とし、日頃の業務の再確認につながった。 ・お客様アンケートを3年ぶりに実施することができたが、実施時期が2月であったため、年度内のサービス改善に繋げることはできなかった。		
実績・達成度（目標との比較）	・新規が滞り、帯での活動が著しく減っていることが稼働・収入減にも繋がっている→稼働時間は大幅に減っており(約780時間減・前年比約22%減)4～2月の事業収入平均は約158万円であるが、10～2月の下半期の平均は143万円と下がっている。①情報共有ツールの使用数：令和5年度より79%増【未達成】②毎月の勉強会以外の研修数：年3回【達成】③介護予防ご利用者数：平均21人【未達成】④お客様アンケートの実施：1回【達成】		

令和6年度 社会福祉法人 吉祥会 寒川ホーム 居宅介護支援 事業計画書・事業報告書

理事長	施設長	管理者	作成者
三澤	三澤	木藤	木藤

理念	すべての人と地域に、介護を通じて3K（歓喜・革新・開花）を実現します。	方針	1. すべての人（スタッフ・お客様）が歓喜できる人生を目指します。 2. 革新する姿勢を忘れずに、常に成長することを目指します。 3. 地域のさらなる開花を目指します。
----	-------------------------------------	----	--

令和5年度 法人の振り返り（評価・今後の課題）	令和5年度 事業所の振り返り（評価）
①有料媒体に一切頼らない採用活動でスタッフを確保することができた ②人材は定着・増員する運営・サービスに変化(取り組む姿勢)がない ③業務効率化・生産性向上を目指しICT・介護機器への取り組みが積極的であった ④新型コロナウイルス感染症への対策・対応ができており、通常通りの運営ができた ⑤人材育成・向上心を高める機会や働きかけがない	1. 令和5年度『特定事業所加算』を継続して取得することができた。 2. 地域貢献の一環として『地域老人会との交流会』を開催することができた。 3. 定期的な事業所会議は実施できたが、『勉強会』を開催することができなかった。 4. 事業所内での情報共有が足りなかった為、個々のケアマネジメント中心になってしまった。 5. 忙しさを理由に研修等への積極的な参加ができなかった。個のスキルアップに繋がらなかった。 6. 法人貢献(他事業所との連携)への意識が低い状態が続いてしまった。

法人目標 / 生産性を向上させ『新たな分野への切り開き・事業展開・サービス拡大』を行う
生産性を向上させ『革新的な取り組み』『事業およびサービスの拡大』『運営の多角化』へ取り組む【歓喜・革新・開花】 互いを尊重・理解し多様性のある職場づくり【歓喜・革新・開花】

居宅介護支援 事業所 事業目標	1. 個人対応ケアマネジメントから事業所対応ケアマネジメントへの改革【歓喜・革新】 2. 新たなサービス(地域貢献活動を含む)の検討・実施 【歓喜・革新・開花】 3. 個のスキルアップと他事業所との合同勉強会・交流機会確保 【歓喜・革新】
具体的な達成（目標）数値	1. 事業所勉強会(事例検討・事例報告)開催(月1回) 2. 新たなサービス(地域貢献活動を含む)の検討会議(月1回)・実施(年4回) 3. 外部研修参加(年6回/1ケアマネ)・他事業所との合同勉強会・交流会の検討会議(月1回)・実施(年4回)

月間計画	評価 ※感想ではない	月間計画	評価 ※感想ではない
4月 勉強会・検討会議	検討会議実施 介護保険制度(法改正)についての勉強会を実施	7月 勉強会・検討会議	検討会議実施 他事業所との合同勉強会【ケアマネの仕事について】
5月 勉強会・検討会議 他事業所との合同研修会	検討会議実施 実習生受け入れ(2名)	8月 勉強会・検討会議 他事業所との合同研修会	検討会議実施
6月 勉強会・検討会議 新たなサービスの実施	検討会議実施 事例検討会実施	9月 勉強会・検討会議 新たなサービスの実施	検討会議実施
上半期評価	検討会議は毎月実施できたが事例検討は実施できなかった。他事業所との合同勉強会は1回実施できた。地域貢献活動を含む新たなサービスも実施することはできなかった。		
10月 勉強会・検討会議	検討会議実施 他事業所との合同勉強会【介護保険制度について】	1月 勉強会・検討会議	検討会議実施
11月 勉強会・検討会議 他事業所との合同研修会	検討会議実施 事例検討会実施	2月 勉強会・検討会議 他事業所との合同研修会	検討会議実施 田端高砂会定例会参加【介護の仕事についての講義】
12月 勉強会・検討会議 新たなサービスの実施	検討会議実施	3月 勉強会・検討会議 新たなサービスの実施	検討会議実施 他事業所との合同勉強会【アセスメントについて】・【カスタマーハラスメントについて】
下半期評価	他事業所との合同勉強会は2回実施することができたが、上半期同様事例検討や新たなサービス実施はできていない。地域貢献活動として田端高砂会への参加は実施した。		
実績・達成度（目標との比較）	①事業所勉強会実施(年12回) 達成度100%(毎月実施) ②新たなサービスの検討会議(年12回)・実施(年4回) 達成度0% ③外部研修参加(年6回)・達成度ほぼ100%(木藤・阿久津・酒井6回以上・徳堂5回) 他事業所との合同研修会(年4回) 達成度75%(年3回実施)		